

洪水時の情報

市から発令される避難情報

水害、土砂災害が発生する恐れがある際に避難行動を促す「避難情報」は、「警戒レベル」の表示と併せて発令します。避難のタイミングを見極める基準の一つとして、どのレベルで避難すべきか家族で話し合っておきましょう。

警戒レベル	避難行動	避難情報等	気象庁などから出る情報
レベル5	すでに災害が発生している状況。命を守るための最善の行動を取る	緊急安全確保	氾濫発生情報、大雨特別警報など
レベル4	安全な場所へ、全員避難	避難指示	土砂災害警戒情報、氾濫危険情報など
レベル3	高齢者など、避難に時間を要するかたは避難。その他のかたは避難の準備をする	高齢者等避難	氾濫警戒情報、洪水・大雨警報など
レベル2	避難行動の確認	注意情報等	洪水・大雨注意報など
レベル1	心構えを高める	早期注意情報等	早期注意情報など

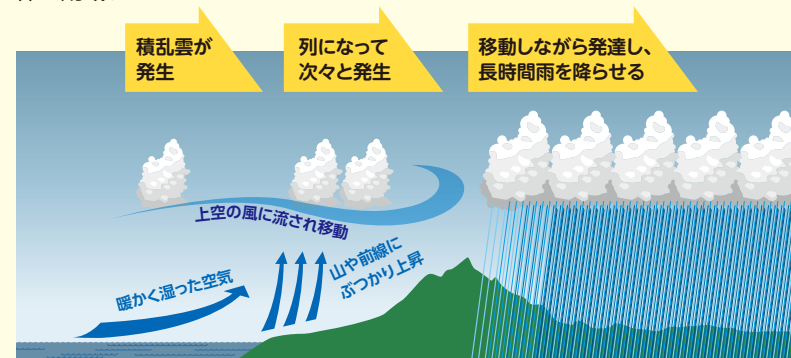
※詳しくは、市のホームページをご覧ください。

雨の強さと降り方（単位：mm/時）

10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上～
「やや強い雨」 ザーザーと降る。雨の音で話し声が良く聞き取れない。	「強い雨」 どしゃ降り。ワイパーを速くしても見づらい。	「激しい雨」 バケツをひっくり返したような激しい雨。道路が川のようになる。	「非常に激しい雨」 滝のように降り、あたりが水しぶきで白くなる。傘は全く役に立たなくなる。	「猛烈な雨」 息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる雨。

線状降水帯とは

次々と発生する発達した雨雲（積乱雲）が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ50～300km程度、幅20～50km程度の強い降水を伴う雨域。



記録的短時間大雨情報とは

数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を、観測（地上の雨量計による観測）したり、解析（気象レーダーと地上の雨量計を組み合わせた分析：解析雨量）したりしたときに発表されます。

この情報が発表されたときは、土砂災害や浸水害、中小河川の洪水災害の発生につながるような猛烈な雨が降っていることを意味しており、特に崖や川の近くなど、危険な場所にいる人（土砂災害（特別）警戒区域や浸水想定区域など、災害が想定される区域にいる人）は、避難情報を確認し、発令されている避難情報に従い、直ちに適切な避難行動をとってください。周りの状況を確認し、避難場所への避難がかえって危険な場合は、少しでも崖から離れた建物や、少しでも浸水しにくい高い場所に移るなど、身の安全を確保してください。避難情報が発令されていなくても、今後、急激に状況が悪化するおそれもあります。危険を感じた場合には、自ら安全な場所へ移動する判断をしてください。

避難行動判定フロー

台風・豪雨時に備えてハザードマップと一緒に「避難行動判定フロー」を確認しましょう

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自宅の災害リスクととるべき行動を確認しましょう

避難行動判定フロー

ハザードマップで自分の家がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう。



あなたがとるべき避難行動は？必ず取り組みましょう

平時に確認

家がある場所に色が塗られていますか？

いいえ

色が塗られていなくても、周り比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、市からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください。

はい

災害の危険があるので、**原則として**、自宅の外に避難が必要です。

例外



●浸水の危険があっても…

- ①洪水により家屋が倒壊または崩落してしまうおそれの高い区域の外側である
- ②浸水する深さよりも高いところにいる
- ③浸水しても「水がひくまで我慢できる」「水・食糧などの備えが十分にある」ような場合は自宅に留まり安全確保をすることも可能です。

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか？

はい

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

警戒レベル3が出たら、**安全な親戚や知人宅に避難**しましょう（日頃から相談しておきましょう）

いいえ

警戒レベル3が出たら、市が指定している**避難所兼避難場所**に避難しましょう

いいえ

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

警戒レベル4が出たら、**安全な親戚や知人宅に避難**しましょう（日頃から相談しておきましょう）

いいえ

警戒レベル4が出たら、市が指定している**避難所兼避難場所**に避難しましょう

「避難」とは「難」を「避」けることです。安全な場所にいる人は、避難所に行く必要はありません！